移民の歴史 ひもとく

文人の武蔵野

坂口安吾 ④

元正天皇時代の716年、周辺諸国で暮らしていた朝鮮半島からの移民たちを武蔵国に集めて高麗郡を置いたと記す公的な記録（「続日本紀」）が残っています。大正期、その記録に基づいて「武蔵野は往古、朝鮮人の移住地であった」と指摘したのは徳富蘇峰（1863～1957年）です。さらに「続日本紀」を分析し、移民の地としての武蔵野に注目したのが坂口安吾（1906～55年）です。

戦後の安吾は、「安吾の新日本地理 高麗神社の祭の笛―武蔵野の巻」（「文芸春秋」1951年12月）で「官撰国史」としての「続日本紀」の記述をとりあげ、「日本」が国家として統一される以前の、大きな政争からは離れた地域であった「武蔵野」を地政学的に考察します。そして、高麗人をはじめとする諸民族が多様な経路で朝鮮半島から渡来して定住し独自の文化を先住民に伝えたり、新天地の統治者に服従して土着化したりといった歴史をひもとき、文化と文化が葛藤し、混交する場として武蔵野を捉えました。

移民の地としての武蔵野に注目した安吾は、高麗神社にも訪れていた（埼玉県日高市で）

1951年10月、「武蔵野散歩」と称して檀一雄（1912～76年）らとともに石神井の檀邸を起点にして高麗神社（現埼玉県日高市）まで「西武電車」で訪れた安吾は、参拝者の記名帳を確認してそこに太宰治（1909～48年）の名も確認しています。高麗郡を由来とする高麗神社が白鬚神社の総本山とされており、向島（現墨田区）の白鬚神社が有名であること、「武蔵野」は白鬚神社の散在する地域であることにも言及しています。

安吾は、現実の武蔵野から千年以上前の武蔵野を幻視して近代日本を考えていたのです。

（武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍）

おすすめの1冊

「坂口安吾全集18」

「武蔵野の巻」を含む「安吾新日本地理」と絶筆となる「安吾新日本風土記」が収録されています。安吾は、参考文献を熟読し、案内人をたてて綿密に踏査し、その土地に独自の解釈を施し紀行文を書くのが常でした。しかし、1955年の高知取材は行き当たりばったりの旅となり、体調を悪化させて亡くなります。

（ちくま文庫）

武蔵野

武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は 0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

■ あすの暦

2月20日（日曜日）
旧 1月20日＜友引＞

通日 51
月齢18.9
（正午）

＝東京標準＝

日出	6.23	満潮	7.11
日入	17.27		19.08
月出	21.04	干潮	1.03
月入	8.22		13.15

（中潮）